

茅 風



— Breeze from the field of thatch-grass —

2020年10月7日
森林塾青水
事務局便り
茅風通信61号



ゆるぶの森で「こころ」と「からだ」を癒す(9月6日撮影)

■ 6月中旬～9月の活動報告(事務局).....	1
■ 2020 定例活動①	2
「防火帯整備・植物調査ほか」	
◆開催報告(草野 洋)	
■ 2020 定例活動②	3
「ミズナラ林整備・自伐林業体験」	
◆開催報告(草野 洋)	
◇参加者感想文(井上正樹・柳沼翔子・渡邊茂雄)	
■ 流域連携楽習会	6
「川場村茅葺き屋根づくり視察参加」	
◆開催報告(稲 貴夫)	
■ 「在宅講座」概要紹介.....	7
◆第1回「サクラはどこから来たのか」	
◆第2回「冬芽には希望が詰まっている」	
◆第3回「上ノ原の最新の写真」	
◆第4回「上ノ原の動物たち」	
◆第5回「ゆるぶの森で心と体を癒す」	
◆第6回「上ノ原のニホンジカの脅威」	
◆第7回「ヤマビル対策はこれで万全」	
◆第8回「クマの生態と被害防止対策」	
■ 藤原だより(北山 郁人).....	9
■ 野守のつぶやき(清水 英毅).....	10
編集後記(敬称略、リレー投稿はお休み)	

- 【6月】
- 10日 「茅風通信60号」発行
 - 13日 第5回在宅講座「ゆるぶの森で「こころ」と「からだ」を癒す—With コロナ時代の森のチカラの活用—」発行、会員宛メール配信、H/P掲載。同時に会友あてもバックナンバーをメルマガ配信。
 - 19日 清水顧問が連携している「日光カヤボッチの会」の飯村代表と共に上ノ原訪問。植生調査。
 - 24日 第6回在宅講座「上ノ原のニホンジカの脅威」発行、会員宛メール配信。

- 【7月】
- 3日 新旧塾長がみなかみ町役場に町長らを訪問。鹿害対策や、フィールドの植生保全について打ち合わせ。
 - 4日、5日 今年1回目のプログラム「防火帯刈払い・植物調査」を(感染症対策のため)会員限定で人数を絞り実施。15名+現地3名が参加。夜間講座は自然保護協会2名、群馬県1名が加わり、「鹿害」についてのレクチャーをしていただく。
 - 4日 現地駐在会員を中心に、フィールド内にライブカメラを設置。WEB ホームページで常時みられるようになる。
また、シカ害対策の鹿トラップ設置の前段階作業として、自然保護協会とともに、3か所に置き塩。

- 15日 第7回在宅講座として、群馬県林業試験場などの「ヤマビル対策」を会員宛メール配信。

【8月】

※特記事項無し

【9月】

- 1日 第8回在宅講座「クマの生態と被害防止対策」発行。秋田県の対策などを会員宛メール配信。
- 5日、6日 今年2回目のプログラム「ミズナラ林・ゆるぶの森整備」を(感染症対策のため)会員限定で人数を絞り実施。16名が参加。
- 5日 群馬県森林インストラクター講座受講者が上ノ原で研修会実施。
- 19日、20日 第1回楽習会(流域連携)「川場村茅葺き屋根づくり視察参加」を実施(感染症対策のため会員限定で人数を絞り実施)。8名が参加。

整然と刈り払
われた防火帯
(7月4日)



(以上)

■2020定例活動①

「防火帯整備・植物調査ほか」

報告 草野 洋

自粛生活を強いられたコロナ禍。5月25日に緊急事態宣言が解除され、6月19日には、県外への移動自粛も解除になったことから、7月4・5日、昨年11月16、17日の茅出し以来ご無沙汰していた藤原・上ノ原での活動を再開した。いつもの年であれば野焼きで始まる活動が今年は防火帯の刈り払いとなってしまった。

私は、3日に前日入りして北山さんとみなかみ町役場を訪問。鬼頭町長、宮崎副町長、金子生活水道課長、高橋環境政策室長と面談、塾長交代のあいさつと森林塾青水の最近の動きと課題について報告した。特に、ニホンジカが増えていることを受けて、町との連携のもと対策を行う必要があることと、貴重な植物の保護について意見を交換した。

そのあと、上ノ原に直行、夏の草原の風景と清々しい空気を味わうとコロナで縮こもっていた心と体



がいっぺんに解放された。免疫力が蘇ったような気さえする、この日のために前倒しで仕事を処理し、休暇を取ってきた甲斐がある。これが上ノ原の魅力である。早速、草

花とススキの生育状況を見て回った。両方とも順調で草花は昨秋より増えていることを確認、ヒメシジミもナワシロイチゴやアザミに群がっている。思わず「そんなに密になっていいの」とつぶやく……。上ノ原の自然は世間の禍をよそにいつもの通りの賑わいである。

今回の参加者のために、前日入りしてある準備をしておくことを決めていた。それは今年初めての作業であり、山之口始めの神事を行うので「茅の輪」を作って参加者とともに無病息災を祈ることである。茅の束を丸く繋いで円を作ればいいのだが「芯」が必要である、ホームセンターで園芸用の鉄製門型支柱を2本買い、ビニールパイプを切ってジョイントに使い円形にすることで簡単に作ることが出来た。茅束を括りつけ茅の輪が完成、十二様の前に備え付けて、明日からの作業が梅雨時であり雨は仕方がないが強く降られないように祈った。

土曜日朝のニュースで、線状降水帯の発達でわが故郷



の熊本芦北が大変な状況であることを知ったが、幸い実家の無事が確認でき、参加者を迎えに出発。

防火帯整備は機械を使い重労働であるので例年は参加者が少ない活動であるが、今回は会員限定でも15名にのぼり、みんな再開を待ち焦がれていたのがわかる。今回の活動は、感染防止に配慮して除菌スプレーなどを準備、3密を避けて、乗車も定員の半分、宿にも一部屋の人数を配慮いただき、参加者には食事時の大声・大笑いの自粛をお願いして交流会も中止するなどの感染防止対策をとった。

初日は、朝は雨が強かったもののその後は時折の小雨、茅の輪をくぐっての山之口始めの神



事を皮切りに防火帯刈り払い、植物調査を実施。

刈り払いは、沼田市在住の斎藤会員（茅刈士補）があらかじめ出役して刈払っていただいたおかげで全線を一日で完了。

植物調査は、3組6人で水飲み場からカラマツ林までの林道沿いの往復をラインサーベイ。対象はシンボル昆虫のヒメシジミ、外来種のヒメジオン、代表的な花のアザミの個体を数える。毎年同様な調査を継続しているが、今年はヒメシジミ 257 匹、ヒメジオン 26 個

茅の輪くぐりと山之口始め神事



植物調査で見つけたヒメシジミのペアとノアザミ



体、アザミ
325 個体であ
った。

もう一組の
調査隊はよく
似た植物の見
分け方を現物
と見比べなが
ら学習しても
らった。

この日の宿は、源泉かけ流し温泉付き民宿の「ロッ
ジたかね」。この日は日本自然保護協会の出島さん、
萩原さん、群馬県林業試験場の主任研究員で獣医師
の坂庭さんが日程を合わせて合流。夕食後、ニホン
ジカ対策講座を開催。



上ノ原のシカ害(剥皮被害)

解説され、参加者の質問に懇切丁寧に答えていただ
きとても有意義な講座となった。

2 日目は、6 : 30 分から早朝講座。北山さん達が自
伐林業のスキームで搬出路を開設した宿のご主人の



上 美しいブナ林
とブナの巨木
左 北山塾長が自
伐林業についても
解説

持ち山を視察した。美しいブナ林やカラマツ林の中
に縦横無尽に開設された搬出路は、軽トラが走行で
きるが、遊歩道としての利用も可能で観光資源とし
ても期待される。

上ノ原での本日の作業は、萩原さんの指導のもと、
シカを誘因するための鉤塩を置く場所 3 ヶ所の決定、
上ノ原のライブカメラの設置、よく似た植物の調査
の継続である。



左 シカ対策セ
ンサーカメラの
設置
左下 鉤塩の設
置
下 鉤塩とセン
サーカメラ



シカの誘因は、シカが
好む鉤塩を地面におい
て、それを撮影できると
ころにセンサーカメラ
を設置。シカが鉤塩がそ
こにあることを認知して足繁く通うようになったこ
とがカメラで捉えられたら、くくり罠を仕掛けるこ
とになる。注意すべきは林縁部であること、獣道で
ないこと、罠の見回りに便利なことを考慮する必要
があることだ。ほかの獣がかからないようにシカだ
けを狙う方法である。この日、南側、中央部、北側
の 3 ヶ所に設置した。

ライブカメラは会
員の民宿吉野屋の主
人(元電気工事職)吉
野一幸幹事が主体と
なって南側の茅場全
体と谷川岳が臨める
場所にあるスギの木
に設置した。ソーラ
パネルを電源に 1 時間
ごとの静止画を送り、ホームページで見ることがで
きる。 <http://www.commonf.net/>

ライブカメラとソーラーパネル



■2020定例活動②

「ミズナラ林整備・自伐林業体験」

～ゆるぶの森で「こころ」と「からだ」を癒す
森林アメニティー～

報告 草野 洋

今年 2 回目の活動は 9 月 5 日、6 日に 16 名の参
加者で、ミズナラ林を整備しながら、ゆるぶの森で
「こころ」と「からだ」を癒す森林アメニティー体
験ーを実施しました。

炎暑と新型コロナウイルスが競うかのように私た
ちの生活を脅かす中、涼しい上ノ原の草原・森林で
コロナ禍を忘れたひとときが 過ごせたら・・・と企画
した森林作業(伐採と歩道修理)と森林浴を組み合
わせた森林アメニティー活動です。今回も密になら



ないように会員限定としたところ、新規入会者3名が早速参加してくれました。この3名は藤原への移住希望者で、北山さんの紹介で青水の存在を知

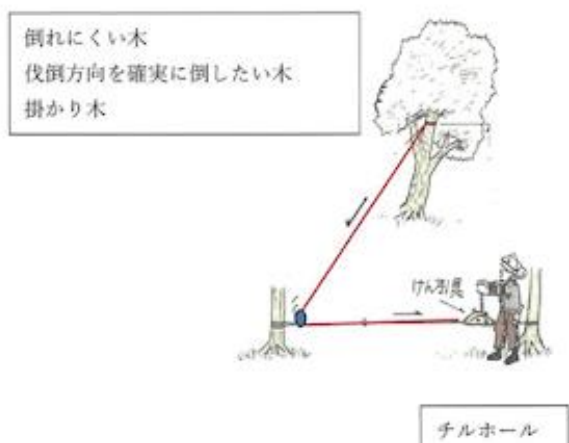
り入会。このように塾が藤原の移住者たちのサロンみたいになってくれたら地元の活動者が増えるので、移住者の増加と青水の活動の活性化が両立することになります。

さて、作業は、今にも雨が降り出しそうな中、まずチェーンソーによる伐倒作業のお手本を北山さんの指導で行いました。その際、倒れにくい木の伐採、伐倒木を倒したい方向に確実に倒すため、掛かり木を防ぐための安全作業道具として「チルホール」の実演を行いました。また、そのために伐倒木にロー



プをかける場合のツリークライミングも実演してくれました。チルホールの使い方のイラストを挙げておきます。

チルホールの使い方



空模様が怪しくなってきたので本格的な伐倒作業は明日に回して早めに散策することにしたのですが、やはり途中で雨に降られました。それもかなり強い雨です。1時間にしたら30mmはあったでしょう。激しい雨は葉っぱに止められることなく林内雨とな

ってしまいました。久しぶりの全身ずぶ濡れを体験しました。でもなんだかすがすがしい気持ちでした。最近の嫌なことがすべて洗い流されたような「禊」を受けたような気分とはこんなものでしょうか。作業は中止して宿に帰り、着替えて、新規加入者を交えて交流会を行いました。この夜予定していた上ノ原での野外交交流会とシカウオッチングは中止となりました。

2日目は、天気も回復し、予定していた遊歩道の修理とキノコ原木と薪材の伐採を行いました。

遊歩道のそばに座観場所を確保すべくミズナラの立木を伐採した時には、後で動かさなくていいよう



にチルホールを使い遊歩道に平行になるように伐倒方向を誘導しました。あいにく掛かり木となりましたが安全に倒すことができ、その後みんなで座り心地を確かめました。

座観場所の木もチルホールを使って狙った方向に・・・でもかかり木に



この後、ゆるぶの森に作られた搬出路を1時間程散策しました。

下 木馬道からの眺め、このあと大雨に見舞われる



コロナ禍で疲れた「こころ」と「からだ」を大雨と草原と森林のすがすがしさに癒された2日間でした。上ノ原のススキの生育は順調で皆さんの茅刈を待っています。

井上昌樹 「ミズナラ林整備参加の感想」

以前、北山さんに藤原地区を初めて案内してもらった際に最初に連れてきてもらったのが「上ノ原」でした。初めて訪れた場所でしたが、ミズナラ林やススキ草原に感激し、すでにその時、上ノ原がとても大切な場所であるということを感じ取っていたように思います。その後も何度か訪れるうちに、上ノ原という場所が自分にとって戻ってくる場所になりました。上ノ原の魅力を発見し、多くの人に伝え、そして守りたいという想いから森林塾青水の活動に参加することは私にとって自然な流れでした。

今回の活動では、遊歩道の整備が印象に残っており、ふだん利用する立場でしかなかった登山道や遊歩道がどのような想いで作られ、維持されているのかを感じる、とても意義深い体験でした。先輩方が木の階段の間隔が広すぎるとみるや、横に倒れた木の枝を杭に加工したり、枝を切り落として横木にしたりする様子は驚くべき判断と手際の良さで行われ、ただただ感嘆するばかりでした。大したことはできませんでしたが、この道を通る人が転ばないようにと願いを込めて、杭を打ち、足場を均して固める体験は入会地に貢献しているという感覚とともに、身体が喜んでいてのを感じました。

今後も遊歩道整備や茅刈り、野焼きなど森林塾青水の活動に参加しながら、入会地・上ノ原の保全に貢献していきたいと考えております。次の活動が待ち遠しいです。

柳沼翔子 「ゆるぶの森整備に参加して」

上ノ原には何回か行ったことがありましたが、森林塾青水の会員として整備するという目的を持って訪れると、これまでとは違った見方ができ、貴重な体験になりました。始めにツリークライミングや間伐を見せていただき、保全をしていく知恵を学び、木々との距離が近くなるのを感じました。草花や木々、水源地、動物の跡を教えていただきながら、皆さんと歩くのは、上ノ原の特徴や季節を肌で感じることができ、心に残る体験でした。これまで整備してきた道やキノコを植えた場所などを教わると、上ノ原の入会地としての歴史が伝わり、少しずつ、



色々な方の手を借りて今の形になっていることを実感しました。雨の中の散策でしたが、雨だからこその空気感や自然の力を感じられ

て、個人的にはそれも含めて良い体験でした。

2 日目に本格的な森の整備をお手伝いさせていただき、里山とこれから里山を訪れる人に少しばかりですが、貢献したような気持ちになり、またこの道に帰ってきたい、と思いました。ただもてなされる旅行では、新しいところに行くことが目的になりがちですが、「貢献した」と思えると、つながりが生まれ、「また帰ってこよう」という気持ちがわきます。

ノコギリやチェーンソーも使いましたが、中々うまく使えず苦勞しました。ただ、道具を通して木とコミュニケーションしているような感覚があり、夢中になって集中してノコギリを引き続けた感触が残っています。ほんの少しずつですが、ノコギリがうまく使えるようになると、ノコギリを通して木の声が聴けている気がしてきて、とても楽しかったです。

また、今回、森林塾青水の成り立ちや、名前の由来、なぜ上ノ原なのかというお話を、皆さんから聴けて、今後もこの活動に携わりたいという思いが強くなりました。特に、入り会い山＝コモンズであり、それが日本古来の保全のあり方だというお話は、大切なことを思い出させてくださったような気持ちになりました。

渡邊茂雄 「皆さん初めまして」

皆さん初めまして、今年7月に青水へ入会した渡邊茂雄と申します。入会の切掛けは、JOIN 移住・交流&地域おこしフェア 2020 へ参加した際に、前橋市への移住を推進している方と知り合いました。その方からの紹介で北山さんとの出会い、清水入会を勧められ入会した次第です。

そもそもなぜ冒頭のイベントへ参加したかと申しますと、今まで30数年間会社員として過ごしてきましたが、60歳定年が近くなり、振り返ってみますと当前ですが、仕事は会社の利益へ貢献するためのものでした。残りの人生くらい、少しは会社ではなく人や地域の役立つ仕事に就きたいと考え始めました。そのような考えがある中で、テレビやインターネットで山林地区の高齢化と人口減少により里山が荒れている。とか、高齢者が町中への移動に苦勞しているとの情報を聞き、これだ！と思い将来はそのような山林地区へ移住しようと考え始めました。考えが単純で甘いと言われても仕方ありませんが...

そのような理由で清水の活動を通じて、山林の理解を深めようとしております。

前置きが長くなりましたが、そのような理由から、今回初めて活動に参加させて頂きました。正直申しまして参加者の年齢層が高いのに驚きました。更に皆さん、とてもお元気で活動を熟しており、また驚きでした。やはり大自然の中での身体を動かす活動は気持ちが良く、その事が元気に繋がっているのではないかと感じました。

若輩者ではありますが、今後とも宜しく願い致します。

■2020 第一回楽習会(流域連携)

川場村「茅葺き屋根づくり」視察参加

―茅葺きの実験を学ぶ― 報告 稲 貴夫

今年第一回目の楽習会(流域連携)は、みなかみ町と武尊山を介して隣接する群馬県川場村で実施された「茅葺き屋根づくり」への視察参加という形で実施し、青水より計8名の会員会友が参加しました。

この「茅葺き屋根づくり」は、川場村にある世田谷区民健康村の主催行事です。川場村は昭和56年に東京都世田谷区と「区民健康村相互協力に関する協定」を締結し、世田谷区との交流事業を進めていますが、その一環である里山塾・専科コースとして位置づけられている行事です。



会場となった古民家

開塾式で里山塾の宮林茂幸校長、古民家研究の専門家である石井榮一講師が挨拶した後、「かやぶき五十嵐」の職人さんの指導で作業が始まりました。



足場が組まれた元水車小屋

里山塾の会場も立派な茅葺きの古民家ですが、今回屋根を葺くのは庭を挟んだ南西側に建つ元水車小屋です。里山塾の開講に合せて数年がかりで作業が進められてきたとのこと。すでに屋根の上部まで茅が葺かれ、棟を載せるまであと少しというところでした。



初日、は五十嵐棟梁の指導で屋根に載せる「切り茅」づくりの作業を行いました。径十センチ程の茅の束を持って余分な枝葉を取り除いてから、



左 切り茅の作業
左下 積み上げられた切り茅

切り口から1メートル程度のところで裁断機で切り、茅の下部と上部を適当に混ぜながら切断面を揃えた上で縄で縛るという作業です。全員で40束ほどの切り茅をつくりました。

曲がった茅が混じっていることもあるので、まっすぐ揃った切り茅をつくるのは大変です。普通のススキは株立ちのため、茅刈りの際は地面からある程度離れた位置で刈らないと、下が曲がった茅になってしまいます。上ノ原のススキは株立ちではないのでそんな心配は余りありませんが、茅はまっすぐでなければならないことを痛感しました。

4時に一日目の作業が終了すると、別会場の中野ビレッジ屋根付広場で行われた講義に参加しました。

講義は「茅葺き屋根の構造&屋根屋の苦労話」と題し、石井講師が五十嵐棟梁の仕事を紹介しながら棟梁に質問するという形式で進められました。これまでの数々の仕事の中には、藤原の諏訪神社舞殿や、昨年の楽習会で視察した秩父市寺尾の諏訪神社も含まれていました。また、古代の葺き方である穂先を下にした逆葺きの仕事を依頼されたこともあったそうですが、この方が水が自然に切れるそうで、昔の方が自然に無理なく素材を使っていたのではないかと話もいただきました。

寺尾の諏訪神社は数年前に葺き替えたとのことでしたが、昨年視察した際は既に大分傷みが進んでいる感じがしました(「茅風通信」No.58 参照)。その理由は寺尾の諏訪神社は麦ワラ葺きであるため、耐久性はススキの三分の一程度しかないことを棟梁の話で知りました。それでも麦ワラで葺くのはススキが手に入らないことと、身近にある材料で完結するのが、萱葺き本来のあり方であるからのようでした。茅葺きは殆どススキと思っていたのですが、目からウロコの話です。

二日目は九時過ぎに現場に集合し、みのがや作りの作業を行いました。



みのがやづくり

こんでいきます。残りの二人は、編み手に10本程度の茅を手渡ししていく作業。余計な枝葉は千歯抜きを使って落としました。

四人の息が合わなければ効率よく進みませんが、あまり急ぎ過ぎると編む個所がずれたり、真ん中だけ膨らんだりします。両端は緩く編み込むのが四か所を均等に編み込んでゆくコツのようです。

これは、二メートル四方に茅を麻縄で編んでいく作業で、四人一組で作業します。縄を編むのは二人で、それぞれ左右二か所ずつ麻縄で茅を編み

みのがやは棟の下まで葺いた茅を押さえる形で載せるため、中央部分が山型に曲がるよう柔らかくしないと上手く乗りません。そのために木づちや地固め器で中央部を打ち付け柔らかくしますが、これはかなりの重労働でした。みのがやは世田谷区の次大夫堀公園の古民家で使用する分を含めて四枚出来上がりました。

昼食を挟んで2時半ごろまで作業は続けました。



左 千歯扱きを使って余分な枝葉を落とす
右 みのがや叩き

棟作りに入るまであと一步のところまで茅葺き作業も進んだようです。最後にスタッフが小屋にシートをかけて今回のすべての作業を修了しました。お疲れ様でした。

青水の一行はこの後、関東有数の道の駅・川場田園プラザで買い物をし解散となりました。

■コロナ禍の中「在宅講座」を開講 八回にわたる講座の概要を紹介します

新型コロナウイルスの感染拡大により、森林塾青水では3月の「キャンドルナイト・雪原トレッキング」以降、野焼きを含め予定されていたプログラムを中止していました。その後、7月の「防火帯整備・植物調査」より会員限定で徐々に動き出し、10月の茅刈りから、本格的な再開を予定しています。その間、青水では「楽習会」や「車座講座」に代えて「在宅講座」を八回にわたり実施してきました。オンライン配信のため会員・関係者全員に行き届いておりませんので、その概要をお伝えいたします。テキストを希望される方は、事務局までご連絡下さい。併せて感想もお待ちしております。(稲)

※事務局連絡先(草野事務局長宅)

ファックス 043-375-1685

携帯電話 090-3390-8406

◆第1回「サクラはどこから来たのか」草野洋・4月30日配信

日本の春を彩る桜。しかし、コロナ過で花見はおろか外出もままならない中、草野さんは代わりに桜

を訪ねる旅に出ました。空想の旅ですが、過去二回のネパール出張の経験と、友人からのネパールに生育するサクラの情報、そして染郷正孝著『桜の来た道—ネパールの桜と日本の桜—』に準拠しながら桜が日本にたどり着くまでの長い道のりを追体験する本格的なものです。何故、日本に秋に咲く桜があるのか、その秘密もダイナミックに解き明かしてくれる一編です。

寄せられた感想(一部抜粋)

「桜のルーツがネパールにあったなんて、草野さんが言われるように日本の桜のイメージでいたので、とても新鮮に感じました。

秋咲きが休眠を経て春咲きに変化したサクラ、コロナ休眠も日本を良い方向に変化させてくれるきっかけになってくれると良いです。」(Kさん)

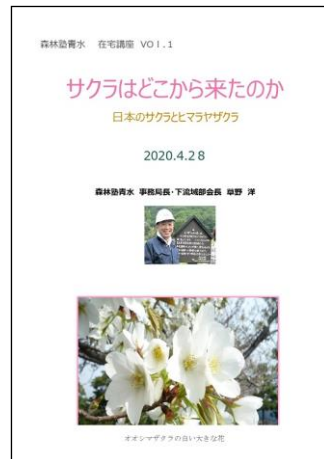
◆第2回「冬芽には希望が詰まっている」草野洋・5月6日配信

草野事務局長が樹木の冬芽をコロナ過で自粛を余儀なくされている人類に譬え、冬芽のあれこれを壮大な構想とたくさんの写真でユーモアもたっぷりに紹介するテキストです。草野さん本人の紹介文を転載します。

「本来は本日で自粛要請が解けるはずでしたが予想通り延長になりました。もう少しがんばれと言うことなので、会員の皆様の在宅中の退屈しのぎになればと「在宅講座.2 冬芽には希望が詰まっている」を作成しました。

誰かがコロナ以前 Before corona (B.C) と After corona (A.C) という言葉を使っていますが、まさに今はその境目だと思います。B.Cの時代の社会の在り方や人間の暮らし方を見直して、A.Cの時代を持続可能な世の中にするために備える自粛ではないのでしょうか。A.Cでは環境問題やグローバル化への関心も高まり変化が起こるでしょう。この自粛にはA.Cで芽吹く希望があると前向きに考えています。

この状況を、厳しい冬を春に新たな葉や花を展開するためにシュルターの姿で過ごす「冬芽」に例えています。この時季はもう展開している上ノ原の冬芽に思いを馳せてもらえば幸いです。」(事務局長・下流域部会長 草野 洋)



第3回「上ノ原の最新の写真」夏目啓一郎・5月11日配信

コロナ禍で上ノ原での活動ができない日々が続く中、現在の上ノ原を見たい、という会員の声にプロのカメラマンでもある夏目幹事が応えてくれました。その一部を「茅風通信」No.60の表紙で紹介しています。



◆第4回「上ノ原の動物たち」北山郁人・6月7日配信

「上ノ原にはいろいろな野生動物が生息しています。2018年から赤谷プロジェクトと連携して、上ノ原の3か所にセンサーカメラ（自動撮影装置）を設置し、観察を続けております。今回そこに写った動物たちをご紹介します。」（塾長・北山郁人）

ここで紹介しているのは、ホンドテン、ニホンノウサギ、子供をおんぶしたニホンザル、獲物をくわえたホンドギツネ、ツキノワグマ、ニホンジカ、ニホンカモシカ、ホモサピエンスですが、他にアナグマ、タヌキ、ハクビシンなどの動物も撮影されていたことです。これから上ノ原では、増えはじめたニホンジカとホモサピエンスとの知恵比べが始まるかもしれません。



◆第5回「ゆるぶの森で心と体を癒す」草野洋・6月13日配信

「With コロナ」の時代を迎え、草野事務局長が「森林アメニティ」の観点から上ノ原のフィールド活用の可能性についてまとめたものです。

キーワードは、ウィルスなどから私たちの健康を守る「免疫」。「With コロナ時代」には「新しい日常」プラス「免疫力アップ」が必須ですが、免疫力低下の最大の原因は精神的ストレスであると言われています。そのストレスを解消するためには、森林療法という言葉があるように、森林の活用に期待が高ま

っていますが、このテキストでこれまでの研究成果を学習することで、「ゆるぶの森」と名付けられた上ノ原の素晴らしさも伝わってきます。青水の活動を通して、草原と森を楽しみながら「こころ」と「からだ」の健康維持・増進、病気の予防さらに社会貢献が出来るのです。

◆第6回「上ノ原のニホンジカの脅威」草野洋・6月24日配信

シカは本来、「奥山に多く、里山に少ない」動物とのことです。百人一首に出てくる猿丸太夫の歌「奥山に紅葉踏み分けなく鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき」からもそのことは理解されます。しかし最近、奥山に少なく里山に増える状況になり、都市域の河川敷などに出没するニュースを耳にすることもあります。

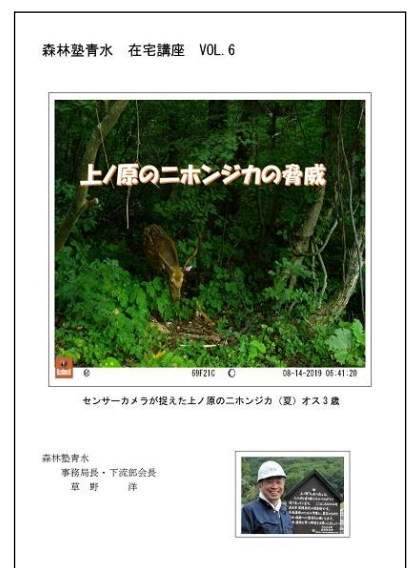
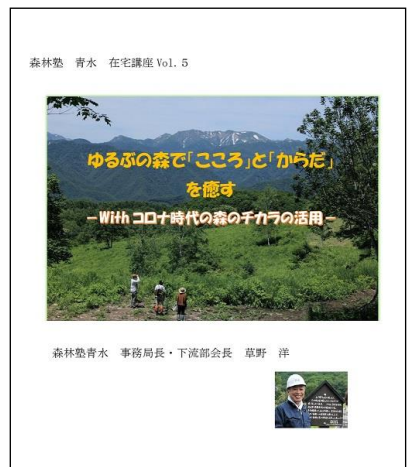
雪が多いためシカの生息には適さない筈の上ノ原でもセンサーカメラや貯糞（ためぐそ）からシカが出没していることは明らかですが、イネ科植物を好むシカの個体数の増加すると、火入れや茅刈りにより安定的な草原を維持している上ノ原の生態系ピラミッドが分断され、ススキの品質にも生物多様性にも悪影響を及ぼすだけでなく、ヤマビルが持ち込まれる可能性があるとして指摘します。

シカが里山に下りてきた原因を探るとともに、シカの駆除と利用など、上ノ原での今後の対策のあり方にも言及した関係者必見のテキストです。

◆第7回「ヤマビル対策はこれで万全」事務局・8月14日配信

群馬県林業試験場など、関係機関が公開しているヤマビル対策集を下記の通り紹介しました。

シカ、熊、イノシシなどの野生動物が里山にも姿を見せるようになっていますが、これに伴い、ヤマビルもその生息域を広げているようです。これについ



て、群馬県林業試験所から、2019年2月に、「これで安心、ヤマビル対策」というリーフレットが公開されており、ヤマビルの特徴、吸血されないための対策、吸血されたときの対応などが、詳しく説明されています。幸い、上ノ原での被害はまだ聞きませんが、今後のボランティア活動にあたり、予備知識として、有益なのでご紹介します。

群馬県ホームページリーフレット「これで安心ヤマビル対策」
<https://www.pref.gunma.jp/07/p13700716.html>

また、今回、これを更にわかりやすく紹介した動画が公開されました。（出演しておられるのは、7月4日「防火帯整備」のときの車座講座でシカ害対策についてお話くださった群馬県林業試験場主任研究員の坂庭浩之の主任さんです。）

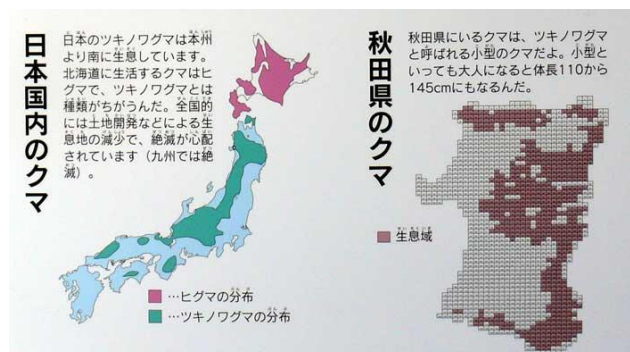
「これで安心ヤマビル対策」
<https://youtu.be/mXWgDkUGsUg>

虫よけスプレーは、各メーカーから数百円程度で市販されていますが、製品により成分が、ディート、イカリジン、天然ハーブなど異なります。このなかで、ヒル対策としてはディート30%のものをお選びください。ディート30%入りの虫よけスプレーは、ヒルよりもっと怖いマダニや蚊、ブユにも効果があるとのこと。ディートについての詳しい説明は、例えば、アース製薬のサイトなどをご参照ください。
<https://www.earth.jp/saratect/safety/deet/>

また、副作用などが気になる場所ですが、登山愛好家むけの<https://yamahack.com/4261>というサイトによると、人体への影響はない、服などの素材への「副作用」も軽微のようです。こちらを併せてご参照ください。

◆第8回「クマの生態と被害防止対策」事務局・9月1日配信

今回の在宅講座は、熊。秋田県の機関、あきた森づくりサポートセンターから、「ツキノワグマの生態と人身被害防止」（2020年8月）と題した、写真入り



の詳しい情報が出されています。大変興味深いかと思しますので、ぜひ一読下さい。

<http://www.forest-akita.jp/data/sansai/kuma-ta-isaku/kuma.html>

また、2007年と多少古いですが、環境省から、「クマ出没対策マニュアル」が出されています。併せて参照ください。

<https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/>

なお、クマよけ鈴やラジオなど、音によるクマよけは、あまり効果がないという声もあるようです。ご注意ください。例えば

https://www.ksp-web.com/blog/kuma_suzu/
 （公共機関ではなく、ブログのリンクなので、内容の転載はご遠慮ください。）

目に見えない敵とも、また大きい奴とも、生態をよく学んで、ソーシャルディスタンスを励行、安全に野外活動が続けたいものです。

藤原だより-現地事務所報告- みなかみ町のナラ枯れ被害 北山 郁人

今年は、全国的にナラ枯れ被害が多くなっています。ミズナラやコナラなどを枯らす樹木の感染症で、体長5mmほどのカシノナガキクイムシが産卵のため木に穴をあけ内部に侵入する時に、ナラ菌と呼ばれるカビの一種を木の内部に持ち込んでしまう。そして、その菌が木の内部で繁殖する事により、水の通りが悪くなり、葉が赤褐色に変色して枯れてしまう。みなかみ町でも水上温泉付近の山が8月後半から紅葉したように所々葉が枯れているのが目立つようになりました。数年前、隣町の新潟県湯沢町で被害が目立っていましたが、今年は全国的に被害が出ているようです。今のところ藤原地区への侵入は無いようですが、被害が出るのも時間の問題かもしれません。残念ながら、対処方法はほとんどなく、薬剤散布やビニールを幹に巻き、虫が羽化して出てこれなくすることぐらいしかありません。

右上 みなかみ町のナラ枯れの様子

右 カシノナガキクイムシ



■野守のつづき(19)

～ 神白きものに宿りて何語る (青)

●六月はわが生まれ月ながき日の

きはみのころに・・・咲かむ 柴生田 稔

・6月19日 昨年10月、飯村さんが見つけて下さった・・・を同氏と共に検分した(→)。当時の約倍数を認め大喜び。但し残念ながら、いずれも蕾状態にて未開花。



・7月4日～5日 塾の今年初の公式行事として皆で観察。全数確認、しかもほとんどが開花状態。その楚々たる立ち姿にあらためて感動！ 早速、2人の大恩人＝その存在を教えてくれた中島武さんと発見者・飯村さんに報告。勿論、茅の輪くぐりでは、三囲りして健やかなる生成を祈った。



●8月6日 盆花を愛でつつ野点を楽しむ集い

日光茅ボッチの会(飯村会長)と大日本茶道学会(竹内先生)のコラボ活動の試みに参加。

前半は飯村会長のガイドで、ノハラアザミ オカトラノオ カセンソウ コオニユリ、など観賞しつつ好みの花を手折り手桶に。

後半は野点を楽しむつつ、各自持参の花器に花を生け各々好きな場所に飾る。最後は、全員の作品を“感謝の印を天に捧げん”と展望台に飾り立て記念撮影で終わった。

手入れの行き届いた豊かな自然と華道・茶道という香り高い文化の融合。心ほのぼのとする日光の隠れ里の一日であった。

コラボ相手を探せば、上ノ原でも出来そう！



●9月5日～6日 楽しみな新たな可能性の芽生え！

今年2回目の塾主催行事。3 密回避のため、会員限定先着18名で〆切。“ゆるぶの森”で遊歩道の整備・散策で心地よい汗をかきながら「こころ」と「からだ」を癒しましょう、という謳い文句。

嬉しい新入会員が3名参加。うち、お二人は”リ・トリート”と称する心の癒しや気分転換をお手伝いする仕事。森林散策カウンセリングもその有効手段で、上ノ原「入会の森」はピッタリ

で気に入っていただいたという。草原+森+水の三点セット。“森林アメニティ”の場としては、何処にもない最適の場所のはず！ 自信をもってお手伝いしたいもの。

もうお一人は、自伐型林業を志し首都圏から藤原へ移住せんと入会された方。キノコ栽培や薪炭用樹木の伐採など、計画的に進めれば美しく若々しい広葉樹林が誕生する。北山塾長の回りには自伐型林業のお仲間が沢山おられる。これまた是非、共に歩を進めたいもの。

地元中心の自伐型林業→若々しい美林の創出→アメニティ空間の提供、という好循環が楽しみ！



●残念に思ったこと、気がかりなことあれこれ

- ・諏訪神社夏祭りの2年連続中止。室町時代から伝承の獅子舞、一抹の寂しさを禁じえなかった。
- ・シカやイノシシの姿がモニターカメラによく登場している。手遅れにならぬ様、執行部にて早めの対策を講じつつあるが、藤原集落の皆さんにとって目の敵は何といっても猿。今年はそれに加えて新型コロナによる観光客の激減。ベースに少子高齢化による限界集落化の進捗、これらが現代藤原の三重苦？

● 人類の所業咎むる雷雨かな

豪雨、森林火災、獣害、コロナ禍などに神罰説がある。だとしたら、人類/我々はどうあるべき・・・？

清正栄子



令和2年白露 (青)

～編集後記～

コロナ禍により、しばらく断念していた上ノ原での活動は、ようやく7月の防火帯整備を皮切りに徐々に始動。昨年の茅出し以来、八ヶ月ぶりに上ノ原を訪れましたが、まるで愛しい人に再会できた気分でした。

活動自粛の間、草野事務局長の企画で始まった「在宅講座」は、これまでで8回にもなりました。そのさわりだけを紹介していますが、是非、本文もご覧いただき、感想をお寄せいただければと思います。また、「こんなことも知りたい」というテーマがあればご一報ください。楽習会も含めてこれからの企画に活かしていきたいと思います。(稲)